



ぶんと通信

第49号
2006年12月15日発行
財)伊賀市文化都市協会

『わが家のおせちとお正月』

古きは平安時代から続くおせち料理。家庭の主婦が家事から解放され正月を楽しまながらも、いつ来客があっても重箱ごとの前にすすめて直ぐ食べていた。客の用に用意しておくもの。そして、家に迎える年神様や、火や水の神様などいろいろな神様に休養していただくためだったとか。清々しい元旦、おせち料理で新年を祝う日本のお正月。昔から伝えられてきたおせちには、いろいろな知恵や工夫がいつぱい詰まっています。今はデパートを始め色んな所で売っているおせちですが、私は出来上がったものが「届く」というより、たとえ一段でも良いから台所で「作る」方が大切ではないのかな?と思いつつ、毎年飽きもせず作り続けて、何とか「わが家のおせち」なるものが出来たように思います。

一の重には、数の子、田作り、黒豆。数の子は子孫繁栄を願う縁起物。田作りは五穀豊穡を願うもの。黒豆は祝い肴の筆頭で、一年をまめに暮らせるようにと願うもの。ふつくらとピカピカに煮上がった豆に、一隣笑顔。他にも紅白かまぼこやさんとうなどの重には、味や色の変化を楽しめる焼き物や蒸し物など、鮭の粕漬けやブリの焼いたもの、エビなどが彩りよく詰まられます。三の重は、おせちの原型で、煮しめの詰め合わせになります。

わが家では、三の重に入る昆布巻きは八十三歳のおばあちゃんや二人の曾孫による作品で、ゆっくりゆっくりと巻いてくれるので、いつ鍋に入れられるのかと冷や冷やものです。そして側らのストープの上では、煮物や蒸し物が次々と出来上がって行きます。寒い中、外での年越しの準備をしている息子や嫁達が味見をしに現れて……。小さいけれど何と幸せなことか。

最後の仕上げに、わが家では家の周りに白砂をまき神様のお供えを済ませ、年越しそばをいただき、後は一束のワラを燃やし、福丸さんと呼び新しい年を迎えることにしています。
お正月は一年の大切な節目。おせちを囲み家族そろって新年を迎えるという事は「うちの決まり」として続いています。多分これからも続けてくれることでしょう。そして、おせちは静かに元旦の朝の出番を待っています。
(広報事業委員 松永啓子)

BUNTO チケット情報

音楽座ミュージカル 「リトルプリンス」

サン＝テグジュペリ著「星の王子さま」より



1/18(木) 好評発売中

開場 18:00 開演 18:30

前売 一般 4,500円
高校生以下 2,000円
(当日各500円増)
(全席指定)

伊賀市文化会館

須川展也 サクソフォン リサイタル



須川展也 (サクソフォン)



小柳美奈子 (ピアノ)

2/4(日) 好評発売中

開場 13:30 開演 14:00

一般 3,000円
高校生以下 1,500円
(当日各500円増)
(全席指定)

青山ホール

上方落語の会 桂ざこば 南光 小米朝 三人会



2/25(日) 12/23(土) 発売

開場 13:30 開演 14:00

前売 一般 2,500円
高校生以下 1,500円
(当日各500円増)
(全席指定)

伊賀市文化会館

新世紀コンサート2006 菅生千穂クラリネットリサイタル ~素晴らしい仲間とともに~



好評発売中

1/28(日)

開場 13:30 開演 14:00

1,000円
(全席自由)

青山ホール

第7回音楽鑑賞会 **3/3(土)**

開場 13:00
開演 13:30
一般 1,000円
高校生以下 500円
(全席自由)

ふるさと会館いが 1/13(土) 発売

青山ホールこども劇団 「うてかりごんぼ」 第2回定期公演 「小さな星の物語」

3/11(日) 1/13(土) 発売

開場 13:30
開演 14:00
一般 700円
高校生以下 500円
(全席自由)
青山ホール

ぶんと通信

HIROSHI

10月29日(日)あやま文化センターにて「HIROSHI PIANO CONCERT」が開催されました。本番前にHIROSHIさんにお話を伺いました。

Q:右手と左手とで違う曲を弾くようになったのは、どうしてですか。

A:理由はないですね～。ピアノは5歳から習い始めました。先生から出された宿題が出来たら、後はジャンルを問わず耳にする曲を弾いていました。聴いた曲を勝手に弾いていて、自然と右手と左手とで違う曲を弾けるようになりました。ずっと鍵盤と戯れていたからかな。私はもともと仕事としてはアレンジでしたので、コンサートを始めたのも自分でアレンジした曲を聴いてもらうことでしたから。

Q:作曲や編曲をするにあたって心がけていることはありますか。

A:う～ん、特にありませんが、鍵盤から言葉が出てくるような曲を作りたいですね。ピアノ用の曲は音域が広く、実際に歌詞をつけても歌えないことが多いので歌詞をつけることはありません。「ごめんね」という曲は、後から歌詞を付けていただいたのですが、こういうことは稀です

Q:HIROSHIさんにとって、音楽・ピアノとはどのようなものですか。

A:ピアノは私にとって、一番身近で大きなおもちゃです(笑)。小さな頃から始めたピアノが、まさか仕事になるとは思っていませんでした。

Q:伊賀でも、ピアノをしている方はたくさんいるのですが、一言メッセージをお願いします。

A:音楽が嫌いな人は、いないと思います。ピアノに限らず、自分の好きな楽器・好きな曲を選ぶことです。強制されるとつまらな

い。「好きこそもの上手なれ」ですよ好きなら、続けていけます。

Q:文化都市協会としては施設の管理のみならず、伊賀から文化を発信していければいいなと思っているのですが、文化について何か思うことはありますか。

A:ここのホールは新しく最新の設備が整っているし、ピアノも新しい。でもね、やっぱりもっと使っていかないとダメですよ。ピアノは、使えば使うほど良くなりますから。ピアノが寂しがっています。市民の方にももっと触れてもらったほうがいいですよ。ピアノに触れること、ホールに来ることが、次につながっていくと思います。自宅にいって音響設備を整えても、ホールは全く違いますから。ホールに気軽に来てもらうことです。そうすれば、使ってもらえる機会も増えてくると思います。施設・設備だけあってもダメです。使いこなす人がいないとね。

本当にそうですね。我々も、もっと市民の方にホールを身近に感じてもらえるような企画を考えていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

コンサートでは、すごく楽しそうにピアノを弾いていました。ピアノの楽しさ、素晴らしさがひしひしと伝わってきました。アレンジひとつで全く曲が変わってしまうんですね。アレンジのすごさ、大切さが、よく分かりました。とても楽しいコンサートでした。今後のご活躍を期待しております。

(広報事業委員 奥 真也)



楽屋のヒッ

西岡由布子

10月7日(土)伊賀市文化会館におきまして「ミュージカル体感セミナー」を開催しました。その講師の一人であり伊賀出身である西岡由布子さんにお話を伺いました。

Q:どうしてミュージカル俳優を目指したのですか。

A:保育園で劇をしたときから演劇が好きになり、上野高校演劇部から大学時代も演劇をしていました。その時にミュージカルに出あって忘れられなくなりました。ミュージカルは、自分の感情の一番テンションの高いところで表現できるんですね。歌って踊るまでに持っていき力はものすごいんです。その感情の高まりが、自分が生きているテンションに似ているように思えるんです。

Q:体験セミナーを見せていただいて、始まるとすごく嬉しそうでしたが……

A:やっぱり、好きなんですよ。やっていると生徒さんを忘れるくらい楽しくなってくるんです。これじゃいかん、いかんと思って、我にかえるんです(笑)

Q:来年の1月18日に公演の「リトルプリンス」についてお願いします。

A:この物語は童話というよりも「詩」なんです。原作者や原作を音楽座として解釈をして、メンバーでそれぞれ確認をしながら、作り上げていきます。その都度振りも変わるし、せりふも変わります。メンバーが役作りを突き詰めて、作品を作り上げていくのです。変化することを厭わない、変えるということに対してフレキシブルである。常に同じものを提供するというのではなく、本番中も変わる。しかしレベルを落とすのではなく、

逆にレベルを上げるためなんです。今回は地元での公演ですので、楽しみにしています。

Q:地元で演じるのは初めてですよ。

A:そうなんです!だから、めちゃめちゃ嬉しいです。伊賀に帰ってきて、こんないいホールでやれるとは思っていませんでした。ずっと続けていけば、こんないいこともあるんやなあと思っています。ふるさとでできるのは、本当に嬉しいです。だから、若い子には絶対にやりたいことをやってくださいと言いたいです。

Q:先輩から見て西岡さんはどんな方ですか。(インタビューに同席いただいたセミナー講師・萩原弘雄さんに伺いました。)

A:すごく一生懸命な人なんです。それがあんな種才能かなと思えるくらいです。完璧主義で自分に厳しい人ですね。半端は嫌だみたいな、ちゃんと状態を整えて臨まないと思えない人ですね。

Q:最後に、西岡さんにとってミュージカルとは。

A:うーん、そうですね…「命の放出」です。自分の全てを放っているものかな?

明るく、丁寧に答えていただいた西岡さん。伊賀出身のアーティストが活躍をしていることは、地元にとってもとても嬉しいことです。「ぶんと」がそんな彼らの応援団でもあることを改めて感じたインタビューでした。ふーちゃん!応援しています。

(広報事業委員 辻村勝則)





上啓筆 ふるさとへ

この国は「美しい」か

朝日ビルディング社長 法花敏郎



信楽の奥にある美術館で青山二郎の蒐集した陶磁器展を観た帰り、車でつづら折れの峠を越えて伊賀盆地に入った。

十月の午後、ススキの穂が風に揺れ、上野城の天守閣が白く光っている。故郷のたたずまいは変わらず、四十年前、自転車のペダルを踏んで通学した高校時代がつい昨日のように思えるのだった。

私たち団塊の世代は幼いころから競争にさらされてきた。受験戦争があり、企業ではモーレツ社員になった。戦後日本の高度経済成長と共に人生を歩み、ほどなく定年を迎える。

幸いなことに日本は300万人の死者を出した第二次世界大戦の痛手から立ち直り、世界第二の経済大国になった。平和憲法を戦後日本の価値体系に据え、石炭、繊維、造船、鉄鋼、家電、自動車などの産業育成に力を注ぎ、巨大な富を築いた。

日本の成功の秘訣は「競争と効率」である。競争を勝ち抜いて国家公務員上級職試験をパスした官僚にこの国の舵取りを任せ、モノ造りではお家芸のきめ細かなサービスとコストカットに取り組んだ。トヨタの自動車やソニーの製品が世界を席卷し、家庭にはモノがあふれている。

だが、「競争と効率」の果てに私たちは何を手にしたのだろうか。大阪城の青テントにはホームレスがあふれ、自殺者は年間3万人に達している。幼児虐待、学童の誘拐、子殺し・親殺し、オレオレ詐欺、いじめに家庭内暴力、知事の汚職、企業戦士の過労死と目を覆う出来事のオンパレードである。とても「美しい」(安部首相)などと形容できる国ではない。

平成の市町村合併で上野市は一昨年秋、周辺五町村と合併し、伊賀市になった。これも財政負担を軽減する行政の効率化の取り組みの一環である。財政の野放図ならば撒きで国と地方の債務(借金)は八百兆円にも達するから行財政改革に取り組まざるを得ないのはわかる。しかし、そこに、住民サービスの低下という落とし穴はないのか。犯罪の凶悪化や富める者と貧しき者の格差などこの国を覆う暗雲は間違いなく伊賀の地を覆っている。

格差社会を是正し、弱い立場の人達を救済するには「安全網」(セーフティネット)の構築が欠かせない。地域社会の自立と共生を促進する取り組みも必要だろう。そうした試みを官僚や政治家に任せるのではなく、それぞれの地域社会が取り組み、中央に先駆けて発信すること、ひと言で言えば分権時代の「真の地方自治」の確立が求められている。

■法花敏郎(ほっけ・としろう) 1948年生まれ。70年、朝日新聞社入社。大阪本社社会部員、同次長、地域報道部長、編集局長補佐などを経て06年6月から現職。95年、「坂田記念ジャーナリズム賞」、99年、日本新聞協会賞受賞。著書「海を渡る赤ちゃん」(朝日新聞社。共著)ほか。

夢ing

「クラブ活動に一生懸命」

県立上野高等学校 H・M

私は、高校のクラブ活動で新聞部に入っています。学校内のニュースや、「特集」記事として最近の気になる問題などを取り上げています。取材を通じて色々な方と出会い、多くの貴重な体験をすることができます。まだまだ勉強をすることがたくさんありますが、新聞を読んでくださった方が、「良かった。次回も楽しみにしている。」と言ってくれた時は、とてもやりがいを感じます。上野高校新聞部は歴史の長いクラブ活動ですから、これを受け継いだ私たちは、多くの先輩方が残して下さった伝統の中味を継続して、生徒が興味を持って読んでくれる新聞を作っていきたいと思っています。

伊賀市は、自然が豊かで、おいしい食べ物も多くとても良い所です。これからこの良い環境を残して多くの方に伊賀市を訪れてもらいたいです。私は観光学に興味を持っているので、もし将来そのような観光の仕事に就くことができたのなら伊賀市の良さを全国に向けてアピールしていこうと考えています。



伊賀のええもん見つけた

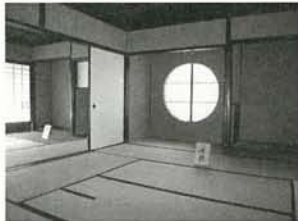
「入交家で思うこと」

入交??「いりまじり」普通なかなか読めません、この辺で見かける名前じゃない、長屋門にある展示室に行くとか解決、藤堂のお殿様は伊賀の前の赴任地は伊予、入交家のルーツも四国にあった。四国の名門「長曾我部」??こりゃまた読めない「ちょうそがべ」と読む。入交家はそこの家臣で3000石もあったらしい、でも残念ながら関が原で西軍だったため失業、でもそこはわが殿、人材登用に長けていた。昨日の敵は今日の友で、四国中の浪人の中から優秀な人材をピックアップ、そんな訳で伊予から伊賀に転勤してきた。

話はそれるけどおじさんたちが毎週楽しみにしている大河ドラマ「功名が辻」の山内一豊が狸親父からもらった土佐に入るのだけど、そのとき大いに抵抗した領民、長曾我部氏が考案した半農半兵「一領具足」(後の郷土)をかなり弾圧して、そのことで幕末まで領民と山内家はいい関係ではなかったらしい、郷土出身の幕

どうなるのだろうか。

話をもとに戻すけど歴史ロマンを感じるこの入交家でぜひ見てもらいたいものがある。それは客人用の座敷にある丸窓、この存在感のある窓はよく吉野窓といわれている、最近では違いが分かるコーヒー会社のCMに使われていたあの窓、才色兼備で有名な二代目吉野太夫が考案した窓といわれていて、本当は下のほうが少し欠けている。太夫が不完全な円で未熟な自分を思い、奢ることを戒める意味があったといわれている。ここの窓は完全な円ですが、移り行く時間とともに変化してゆく景色を感じてほしいな。あと不思議なものを発見!それは奥之間天井の落書き。何時、誰が、何の為に? 念のため写真を添えます。もう紙面がないから書かないけど結構これが訳ありらしいよ。



末のヒーロー坂本竜馬も脱藩したのも分かるような気も? 千代はいつまでも可愛いけど、これから山内の殿様は土佐でどのようになってゆくのだろうか。ついでに橋本知事も



殆ど施設は説明できなかったけど(手抜き?)これだけいろんなことがある入交家住宅に、伊賀市民は一度ぜひ来てほしい。(広報事業委員 M・M)

文化あれこれ春夏秋冬

特集 伊賀の食文化編 「でっちようかん」

でっちようかんは、昔から伊賀のそれぞれの家庭でおやつとして作られていました。

夏の食べ物イメージがありますが、冷蔵技術の発達していない頃は、冬のお菓子だったようです。

名前の由来は、2つの説があります。丁稚さんが買えるくらい安価であるということからきたという説と、和菓子屋の丁稚さんが、羊羹づくりのあと、釜にへばりついた少量の餡で自分たちのおやつをこしらえたところからきた説です。

餡はとてもヘルシーで、その甘みをおさえた口あたりのよい食感に皆に愛されています。伊賀の名物にまでなったでっちようかん作り挑戦してみませんか。

(広報事業委員 池澤基善)

【製法手順】



①糸寒天を水に浸けておく。(20°くらいなら10時間ほど。)



②水を切り、配合の水で寒天と一緒に火にかけて沸騰させる。(粉寒天なら少し水多めでそのまま水から溶かす。)



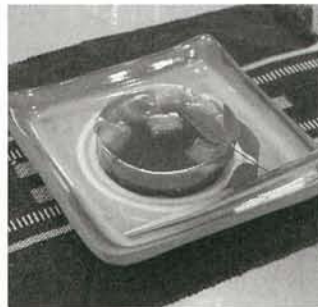
③砂糖と生餡、塩を入れ溶解したら火を止める。



④ゆっくりとかき混ぜながら45°くらいまでさます。



⑤容器に流し入れ、冷蔵庫で冷やして出来上がり。



●レシピ●

【材料】

| | |
|---------------|-------|
| 糸寒天 | 3g |
| (粉末寒天なら2g~3g) | |
| 水 | 250cc |
| 生餡 | 100g |
| 砂糖 | 130g |
| 塩 | 少々 |

ひと工夫

でっちようかんの中にいろんな食材をいれてみたらどうでしょう。例えば、ナタデココ、アロエ、甘納豆、ドライフルーツ、干柿、タピオカ、さつま芋などや、イチゴやバナナ、キウイフルーツまた小梅漬や、塩昆布なども試してみてもいいかも。

こだわり人生乾杯

「チンドン楽しや」

藤森 莊 剛

休日は何故こんなにも忙しいのか？

スケジュール帳を見ると、平日は時間的に空きがあるにも拘らず、休日はギッシリと予定が詰まっている。トトロハウス(ログハウス)の建築、遊歩道整備、各種イベントでのチンドン参加等々、ほとんどが富都路(トトロ)の活動メニューで、我が家の用件は僅かで家族からは非難の嵐である。

富都路は、14年前の平成4年に地域のことを考えつつ何か楽しいことをしようと、小学校PTAの父兄を中心に集まった地域づくりのグループであり、「ホッとする田舎づくり」をキャッチコピーとして、入・退会は自由、参加は強要せず、継続は力なり、先ず自らが楽しむことをコンセプトに多方面の活動を続けている。

中でも、チンドン富都路一座は40から50歳代のいいオヤジが、白塗リドーランの厚化粧で賑やかに練り歩くもので、一度その道に足を踏み込めば、変身願望やストレス解消でその魅力から抜け出せなくなる。富山の全国チンドンコンクールや地元のお祭、イベントなど、活動の幅も広く富都路の活動の重要なツールであり、中心をなしている。地域づくりは人づくりであり、自らが変わらなければ地域は変わらない。自らが楽しくなければ地域は楽しくならない。

富都路一座のチンドン稼業は今日も行く…



その夜、宿泊するホテルのバスルームで全身を点検した。普段運動しないものだから、いわゆる中年太りになっていた。バリバリ仕事をしてきた時代にくらべて、頬の筋肉がゆるみ、おばさん顔にもなっていた。

これじゃ、老人だ。席をゆずられて、文句などいえない。

数年ぶりに東京へ行ってきた。四泊五日の短い滞在だったが、いろんな人と逢い、談笑し、命の洗濯をして帰った。四十余年暮らした東京は、逆に、わたしには第二の故郷みたいなものだ。その第二の故郷で、ちよつとシヨックなことがあった。山手線に乗ったら、重い荷物も持っていないのに、三十代の男性に席をゆずられたのだ。どうぞと、さっと立った彼に一瞬戸惑った。わたしに？まさか…と、思いつつも、断るのも失礼だと、礼を言っただけで座った。席をゆずられるほど老女に見えたのかしら。気分は40代、まだまだ元気印なのに――。

「働き盛り」

北泉 優子



多情 多感

No.10

伊賀でのわたしは、もう年だから、のんびり、ゆっくり、活動の場は、若い人達に提供するわと、一歩下がって生きてきた。

だが、東京で逢った沢山の友人知人は、誰一人、もう年だからとは口にしなかった。わたしより年上の男友達でさえ、まだやりたいこと、やるべきことがある、のんびり遊んでなんかいられないと、熱く夢を語った。

芸能界で長年一流俳優のマネージャーとして活躍してきた女友達は、三年前に業界からは足を洗ったが、今度は一転、俳句と俳画に手を染め、やれ吟行だ句会だと毎日を多忙にすごしている。

「ゆっくり、のんびりなんて言っちゃだめ。わたし達には時間がないのよ。やりたい夢を追いかけて頑張らなくっちゃ。夢を抱いている時が働き盛りなのよ。田舎で、でんと座ってないで、一年に一度は上京して、刺激を受けなさい。」

席をゆずられたことと、その言葉は、わたしの楔となった。

東京と伊賀の二重生活を始めた時、真つ先に感じたのは、伊賀は長老支配だということだった。老人が我が物顔で要職にしがみつき、若い人達の台頭を拒んだ。そんななかで、わたしは、たった一人、若い有能な人達をかき集め、その先頭に立って、拙作「忍び糸」のひとり芝居を企画制作した。一年余りをかけて準備し、その間、夢に取り憑かれたわたしに波々引きずられていた若人たちが、大いに盛り

上がり、夢中になって活動してくれて、最後には大きな輪になっていった。ひとり芝居の公演は大成に終わった。

そして十一年が経った今、長老支配が頭から離れなかったわたしは、七十歳になつたら、すべての役職から身を引き、老猫と二人(?)で、静かに余生を送ろうと心のどこかで決めていた。

だが、東京で、大刺激を受けて戻った現在は、まだまだ引退はできない。「お前さん、もう邪魔なんだよ」と宣告されなにかぎり、若い人に混じって、さまざまなことに参加させてもらおうと思っ直した。

わたしも、まだ夢がある。来年ぜひ実現させたいイベントの企画。民話語り部塾の発展。以前この欄で書いた芝居は、プロデューサーが借金まみれになり中断してしまつたが、別の芝居の話もいただいている。書きたいもの、書くべきものがいっぱいある。それが夢だ。尊敬する名プロデューサーの女史が、「辛口あま酒」を読んで言ってくれた。

「優子ちゃん、筆力おとろえてないよ。あとひと頑張りしなさい」

来年からは、ゆっくり、のんびりではなく、懸命に夢を追いかける。もう鬼も笑わない季節だから、ちよつと心境の変化を書かせてもらった。

(作家・市内在住)

0(ゼロ)から始める舞台音響・照明ワークショップ

----- 受講者発表会 -----

ジャズ コンサート
JAZZ CONCERT

ふるさと会館いがでは、9月から10回にわたり「0(ゼロ)から始める舞台音響・照明ワークショップ」を実施してきました。

その受講者(音響コース15名・照明コース9名)が勉強の成果を披露する「JAZZ CONCERT」を開催します。



- 開催日時 2007年1月27日(土)
開場 18:30 開演 19:00
 - 場 所 ふるさと会館いが 大ホール
 - 入場料金 1,500円(当日2,000円) 全席自由
 - 出演者 Guitar / ICHI 山中 享一
Bass / 西川 サトシ
Piano / 関谷 友加里
Drums / 森 智彦
Vocal / 溝口 恵美子
- ※チケットは好評発売中!!

上野歴史民俗資料館特別企画

「伊賀子ちゃん博物館展」



「まちかど博物館」は、これまでの「博物館」のイメージにとらわれることなく、コレクションや伝統の技、手仕事などを仕事場の一角や個人のお宅、店先などで、館長さんと語りと共に見ることができる新しいかたちの博物館です。

第1期「遊ぶ」に続いて、女性館長さん(一部を除く)の博物館7館の出張展示です。

- 開催期間 第2期展示 ~女性館長編~
12月4日(月)~1月26日(金)(12/29~1/3休館)
- 場 所 上野歴史民俗資料館(伊賀市上野丸之内116-2)
- 開館時間 午前9:00~午後4:30
- 参加館 ・いろは館 絵手紙 ・方隆窯・志乃ギャラリー
・花工房たんぼぼ ・手づくりバッグ・玲
・糸と織物博物館 ・愛の木目込み人形館
・街角プリキのおもちゃ博物館 TINs Cafe
- 入館料金 通常料金
大人200円 高・大学生150円 小・中学生100円
- 共 催 伊賀まちかど博物館推進委員会
- お問合せ (財)伊賀市文化都市協会(TEL0595-22-0511)

女性館長さん大集合 1月21日(日)

- <糸と織物博物館> 糸車(つむぎ)体験
- <花工房たんぼぼ> 押花菜(しおり)体験【有料】
- <いろは館 絵手紙> 絵手紙教室
- <手づくりバッグ・玲> 実演・販売

旧小田小学校本館 冬の特別企画

「昔の教室で、なつかしの授業」

教科書は時代を映す鏡ともいわれます。

昨年復元した「昔の教室」に座り、明治初期から昭和にかけての教科書を使って、その時代の人々の生活や教育の歴史などを振り返って授業を受けてみませんか。おいしいちゃんやおばあちゃんとお孫さん……。お友達同士で……。



☆習字教室

- 開催日時 平成19年1月27日(土) 13:30~14:30
- 対象者 小学4年生以上
- 募集人数 16名程度
- 持ち物 毛筆習字に必要な道具(墨汁使用)

☆音楽教室

- 開催日時 平成19年2月4日(日) 13:30~14:30
- 対象者 小学生以上
- 募集人数 20名程度

※いずれも大人の方の参加、大歓迎です。

~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

◎参加費 大人100円、学生50円、児童生徒30円

◎受付方法 平成19年1月12日(金)

午前9時から電話で受付(定員になり次第締切ます)

伊賀市文化都市協会 TEL0595-22-0511

ピアノデュオコンサート

~佐藤裕子と共に~

出演者募集

受付中

青山ホールにある2台のスタインウェイピアノを使って気軽に音楽に接し日頃の成果を披露してみませんか。今回は、プロのピアニストとの連弾やお友達とデュオなどの出演者を募集しています。



- 開催日時 平成19年2月25日(日) 14:00開演
- 場 所 青山ホール
- 内 容 A 佐藤裕子との連弾
・資格 小学生から大学生まで
・曲目 青山ホールにお問合せ下さい。
B 2台ピアノ使用、又は1台で連弾
・資格 年齢は問いません
・曲目 自由(ただし、受付の先着を優先とします)
・演奏時間 15分以内
- 参加費 10,000円
※参加者にはチケット1人10枚お渡しします
- 受付方法 所定の申込用紙に必要事項を記入し、郵送又はFaxで下記までお申込みください。
〒518-0226 伊賀市阿保1411-1 青山ホール
TEL0595-52-1109 FAX0595-52-3698

アクア タイムズ
Aqua Timez
the "BiG BaNG" tour '07

伊賀公演決定!



「決意の朝に」や「等身大のラブソング」が大ヒット!
第57回NHK紅白歌合戦に初出場が決定したアクアタイムズが伊賀にやってきます。のりに乗ってるアクアのサウンドをぜひお楽しみ下さい。

- 開催日時 2007年3月18日(日)
17:30開場 18:00開演
- 場 所 伊賀市文化会館 さまざまホール
- 料 金 4,000円(全席指定)
- チケット発売開始 1月14日(日)
- SaMaZaMa Club先行予約 1月8日(祝)~10日(水)
※SaMaZaMa Clubご入会のお問合せ
伊賀市文化会館 TEL 0595-24-7015

らくらく
史跡旧崇廣堂 **楽楽落語講座**

2月25日(日)伊賀市文化会館で行われる、上方落語の会「桂ざこば、南光、小米朝三人会」の本公演の前に、日本の古典芸能である「落語」を身近に感じていただくこと、落語のいろは・楽しさを体感する講座を開講します。

親子で、また、お友達同士でお越し下さい。

- 開催日時 2007年2月3日(土)
13:30受付開始 14:00開講
- 場 所 史跡 旧崇廣堂 講堂
- 講 師 桂 雀喜(じゃっき)
- 内 容 扇子や手ぬぐいを使った仕草や落語独特の語り方を、楽しく分かりやすく体験します。高座にあげられるかも…
- 料 金 通常参観料(大人200円、高・大学生150円、小・中学校100円)
- 受付方法 1月15日(月)から電話で受付します。
定員150名(定員になり次第、締め切ります。)
- お問合せ・お申込み (財)伊賀市文化都市協会(TEL22-0511)
史跡旧崇廣堂(TEL24-6090)



音楽座ミュージカル
「リトルプリンス」関連情報

- バックステージツアー(観劇前に舞台裏を見学できる)開催
参加資格 1月18日(木)の公演をご観劇の方、当日16:00開始(60分程度の予定)。開始10分前にロビー集合。
- 搬入・搬出アルバイト募集
7:30~0:00まで(休憩あり) 13,000円
健康で体力のある方
詳しくは(財)伊賀市文化都市協会(TEL22-0511)まで

年末年始の施設案内

■12月29日~1月3日まで休業の施設

- ・伊賀市文化会館
- ・ふるさと会館いが
- ・青山ホール
- ・あやま文化センター
- ・阿山ふるさとの森公園
- ・伊賀上野交流研修センター
- ・栄楽館
- ・史跡旧崇廣堂
- ・旧小田小学校本館
- ・城之越遺跡
- ・上野歴史民俗資料館
- ・入交家住宅
- ・阿山ふるさと資料館
- ・三重県立ゆめドームうえの
- ・伊賀市ゆめぼりすセンター

■12月28日~1月3日まで休業の施設

- ・阿山B&G海洋センター
- ・大山田B&G海洋センター

■12月27日~1月4日まで休業の施設

- ・伊賀市上野図書館
- ※27日は図書整理日

■次の施設は年末年始(12/29~1/3)もご利用できますが、12月20日の午後5時までに受付を行ってください。

- ・上野運動公園野球場
- ・上野運動公園競技場
- ・上野運動公園スポーツセンター
- ・上野運動公園テニスコート
- ・上野運動公園体育館
- ・伊賀上野武道館
- ・上野緑ヶ丘テニスコート
- ・ゆめが丘テニスコート
- ・阿山第一運動公園
- ・阿山第二運動公園
- ・大山田せせらぎ運動公園
- ・いがまちスポーツセンター
- ・青山グラウンド
- ・青山北部公園運動施設
- ・島ヶ原運動広場
- ・島ヶ原体育館

■多目的広場は冬期芝生養生期間を設けていますので、年末年始等は次のように取り扱います。

- ◇養生期間 1月1日~3月31日
- ◇使用可能日 12月29日~12月31日
- ◇受付期間 12月20日午後5時まで

ホール・ドーム **これから** 情報

青山ホール

伊賀市阿保1411-1 TEL.52-1109

Table with 4 columns: 日時, 催し物, 入場料, 主催・問い合わせ. Includes events like 'はあと♡コンサート', '第12回ブルーエコークリスマス', 'ピアノ発表会', etc.

ゆめドームうえの

伊賀市ゆめが丘一丁目1番地の3 TEL.22-0590

Table with 4 columns: 日時, 催し物, 場所, 主催・問い合わせ. Includes events like '伊賀市ソフトバレーボール連盟大会', '伊賀市小学生バレーボール新人戦', etc.

第2回 伊賀学[観光]検定 [初級・中級]

- 開催日時: 平成19年3月4日(日)
開催場所: 上野商工会議所他
申込期間: 平成19年1月5日(金)~2月5日(月)
出題範囲: 出題範囲……芭蕉・城・忍術・祭・文化財・歴史・文学・自然・生活文化・雑学
受験料: 初級1,500円(ただし、中学生以下は1,000円) 中級2,000円
受験対策セミナー: とくとき 平成19年1月27日(土)
申し込み・お問い合わせ: 上野商工会議所 〒518-0873 伊賀市上野丸之内37-2

●編集部だより●

昨年の12月21日、市議会の決議により伊賀市文化都市協会が応募した全ての施設の指定管理者に選定されました。また、本年は文化会館開館15周年、協会設立10周年の節目の年でもあることから様々な改革や新しい取り組みに望み、気がつけばあっという間の一年でした。

広報事業委員会も伊賀の文化をより多くより楽しく発信していきたいとの思いで、手探りの中ではありますが、誌面を倍に増やし、新メンバーも迎え、内容の充実を目指し取り組んでまいりました。ここに一年間のご愛読を感謝申し上げます。今後とも皆様からのさらなるご支援、ご指導よろしくお願い致します。 平成18年師走 (広報事業委員 菊野善久)

伊賀市文化会館

伊賀市西明寺3240番地の2 TEL.24-7015

Table with 4 columns: 日時, 催し物, 入場料, 主催・問い合わせ. Includes events like '伊賀シンフォニックアカデミー吹奏楽団 第40回記念定期演奏会', '成人式', '音楽座ミュージカル『リトルプリンス』', etc.

ふるさと会館いが

伊賀市下柘植6243番地 TEL.45-9125

Table with 4 columns: 日時, 催し物, 場所, 入場料, 主催・問い合わせ. Includes events like 'ダンス発表会', '交通安全 保護者と子どものつどい', 'あけぼの学園高等学校 第4回成果発表会', etc.

あやま文化センター

伊賀市川合3370-29 TEL.43-1125

Table with 4 columns: 日時, 催し物, 入場料, 主催・問い合わせ. Includes events like '野田淳子 ふれあいトーク&コンサート『元気かい!!』', '幾世代ふれあい映画会', 'あやま芸能交流会'.

Advertisement for '伊賀びと川柳' (Iga Bito Senryu) featuring a vertical banner and a poem by Mei Tanaka: '★泣かすのが 夜を惚れ直す 薪能 梅田とほる'.

ぶんと通信